

寺報

No.690

令和7年2月

蓮華寺
發行

御聖訓

すべからく心こころをいつ一にして南無妙
法蓮華經と、我われも唱となえ、他たにも勸すす
めんのみこそ、今こん生じよう人界にんがいの思おもい出いでな
るべき。

『持妙法華問答鈔』
じみょうほつけもんどうしやう



(解説)

法華經の第二章に『方便品』が説かれています。一般に「ウソも方便」という言葉を使いますが、『方便』とは、相手を正しい方に導く為に使う手立てをいうのであり、決して『ウソ』という意味ではありません。

お釈迦様は、法華經に実は自らも他の人達と同じように、本元ほんもとの『御本仏様』からこの世で修行し、他の人を導く為に、『命』を授けられたのだと説かれました。

つまりどのような人であっても、この事に気が付き、実行する事で、「あなた達も私と同じ仏に成れる」という事を教えたかったのです。

このように、お釈迦様は様々な『方便』を持ち入り我々を正しい真理の世界に導いてくれたのです。

日蓮大聖人は、この教えを説かれたお釈迦様の気持ちを受け継ぎ、日頃から法華經・お題目を唱え、また他の人にも勧める事が大切であるといいました。

どうか皆様も、今年一年間頑張って信仰していくようにお願いします。

節分会のお知らせ

二月二日[◎]（日）

午後六時開始

男性大厄

数え二十五歳	平成十三年生れ
数え四十二歳	昭和五十九年生れ

女性大厄

数え十 九歳	平成十九年生れ
数え三十三歳	平成五年生れ

年男・年女

昭和四年・十六年・二十八年
四十年・五十二年・六十四年生れ
平成元年・十三年・二十五年生れ
令和七年生れ

（巳年）

その他

・前厄・後厄（厄年の前後）
・還暦（六十一歳）・古稀（七十歳）
・喜寿（七十七歳）・傘寿（八十歳）
・米寿（八十八歳）・卒寿（九十歳）
・白寿（九十九歳）
④いづれも数え年です。
・今年ご祈祷希望者はどなたでも受けられます。

★^{はっほうふさ}八方塞がり

困った状態を表す時に使う『八方塞がり』という言葉があります。

この年に当る人は何をやっても上手くいかず、どうしようもない状態におちいつたり、またどの方面に行っても差し障りが出てくる事があります。

八方とは「東・西・南・北・南東・南西・北東・北西」をいいますが、この方角よりも、皆様一人一人が持つています年令ごとの星回りに現れる厄を、この年にお祓いしなくてはなりません。

これを『八方塞がり』の厄除け祈祷といます。

*令和七年度の八方塞がり

男女共通（数え年）

大正十五年（百歳）
昭和元年（百歳）・昭和十年（九十一歳）・十九年（八十二歳）・二十八年（七十三歳）・三十七年（六十四歳）・四十六年（五十五歳）・五十五年（四十六歳）・六十四年（三十七歳）
平成元年（三十七歳）・十年（二十八歳）・十九年（十九歳）・二十八年（十歳）
令和七年（一歳）

★厄払い・三千五百円

- ◎豆まき◎祈願読上げ
- ◎ご祈祷◎厄札◎絵馬
- ◎福豆のお土産等

④当日、ご本人が来られない場合は、代理の方か、または帯・ベルト・着物・肌着等、身に着ける物をご持参下さい。

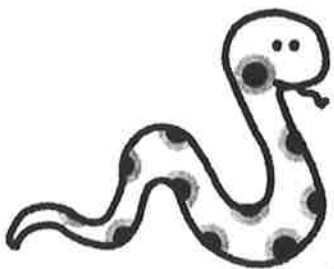
前もってお寺に預かれても結構です。

★一般祈願・千円（◎節分札◎祈願読上げ）

【随時受付中】

当山蓮華寺では、本人大

厄（前厄・後厄も含む）に当ります男女、また干支の巳【み】年に当ります年男年女、更に今年『八方塞がり』の方、今年特別にご祈祷を希望する方々に、まず厄払いのご祈祷とお加持を受けて戴き、次に豆まき（落花生）、最後に絵馬と厄



厄払い

私達が一生の中で、特に災難に遭う恐れが多く、慎みたい年を『厄年』といいます。

男性は二十五歳と四十二歳、女性は十九歳と三十三歳の年を『前厄』『後厄』といいまして、この三年間を慎む風習が昔からあります。

厄年に当る人が、神仏の前で厄災の起こらないようにと祈念する行事を『厄払い』、また除厄祈祷といます。

日蓮大聖人は、法華経を信仰する事で「三十三の厄、転じて三十三の幸いとならせ給うべし」と教えられ、昔から信者の厄年の男女は、法華経・お題目の力によつて除厄得幸を祈つてきました。

当山では、厄年以外の今年「巳年」の『年男・年女』また『還暦』『古稀』『喜寿』『傘寿』『米寿』『卒寿』『白寿』等、更にその年の除災を願う方々は、どなたでもご祈禱を受ける事が出来ます。

また一般の参拝の方々は、除厄された方よりまかれる豆を拾い、今年の福を分けてもらつて下さい。

日蓮宗は

『鬼は外』を言わない？

檀家さんから「日蓮宗は鬼子母神様をお祀りしているの、『鬼は外』は言わず『福は内』だけを言う」と聞きましたが、蓮華寺では『鬼は外』を言つて豆をまいていますが、良いのでしょうか」と質問がありました。

確かに、日蓮宗の中で特に『鬼子母神様』を中心にお祀りしています千葉県・中山の『法華経寺』では『福

は内』のみで豆まきをしています。

しかし、当山の先代『角田堯榮』上人は「鬼子母神様は昔、他の子供を殺すなどの悪業を繰り返していたかも知れませんが、お釈迦様にさとされてからは、善神として子供、また皆様をご守護すると約束し、改心しています。

ですから、名前の中に『鬼』という字が入っていたとしても、もう『鬼』ではないのです。

それよりも大切なのは、我々人間が持っている『心の鬼』を追い出さなければなりません。

その為には声高らかに『鬼は外・福は内』と唱えて下さい。」と言われました。

『節分』に行われる儀式を『追儺会』と言います。

招き言羅ルは「厄払い・厄落とし」の事で、我々に害をなし、苦しめる悪霊・疫病・厄神などを追い払い、幸せをもたらす守護神・福神・善神を招き入れる行事です。

皆様もどうか遠慮をなさらずに

『鬼は外・福は内』と大きな声を出して、豆をまくようにして下さい。

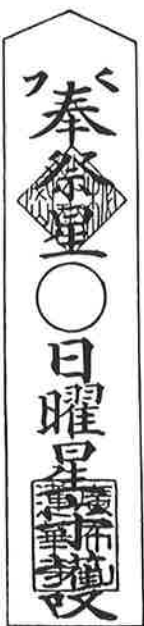


『星 祭』お申し込みのお知らせ

当山では毎年三月に行われます『星祭』の期間中皆様のご家族のお名前と数え年を記入しました「星（剣守札）」をお祀りして、その年の善星が皆来し、悪星が退散して、一年間無事安泰でありますようにと祈願致します。

その時に、皆様がお受けになります「星」のお申し込みは、事務所に置いてあります専用の用紙に、ご家族のお名前・性別・数え年・住所等をお書きの上、お早めにお申し込み下さい。

※剣守札（星）【一体・・・二百円】



どうか、檀信徒の皆様は、是非とも毎年この「星（剣守札）」をお申し込み戴き、そして、いまだ知らない方がおりましたら、お勧めになりますようにお願い致します。

二月十三日（木）より受付します。

『御守護』札を

貼付しましょう！

当山で毎年年末に用意致します『御守護札』は、蓮華寺の檀家である証明と、その家をご守護する為のお札ですので、必ず玄関に貼付するようにして下さい。まだ檀家の中でも知らないで、貼付していない家庭も沢山あります。

どうか、今年度より貼付するようにお願い致します。



（五百円）

また、その年に家でご不幸などがあつた場合でも、御札・御幣等は必ず毎年取り替えるようにして下さい。

☆ 靈 断

檀信徒の皆様で、日頃から何か困り事や悩み事がありましたら、迷わずに蓮華寺までご相談下さい。

日蓮宗に伝わる秘法『九識靈断法』にて当山僧侶が解決、ご指導致します。

なお、宗旨宗派は問いません。

☎776-5840

【相談料は原則として三千元となります】

永代供養堂

当山会館の三階にあります「永代供養堂」は、今後後を見る事が出来ない仏様をご供養する所です。

まず、当山指定のお位牌の正面に『ご戒名』または『先祖代々之諸精霊』と彫り、裏面には施主名を彫り御寶前にお祀りします。

そして、蓮華寺のお寺が続く限り、永遠にご供養して参ります。

ここでは、毎朝僧侶がお経を上げ、ご命日の日にはご戒名を読み上げますし、また先祖代々のご供養はお申込みのあった日に読み上げをしています。

永代供養塔

当山境内にありますが「永代供養塔」は、今後、後を見る事が出来ない『個人のお骨』また『先祖代々のお骨』を埋骨し、永代に渡りご供養しております。

ここは、毎月僧侶がお経を上げ、ご供養を欠かす事はありません。

(注)どちらも詳細は、当山事務所までご相談下さい。

☎017-776-5840

『霊神符』を持ちましょう！

最近思いもよらない事故・事件・災害が多発して特に、お子さんやお年寄りが多く巻き込まれている状態です。

檀信徒の皆様も「私だけは大丈夫」という考えはお止めになりまして、素直に毎月『霊神符』(お守り)を肌身離さずお持ちになりますようお願いいたします。

【二体・百八十円】

『聖徒団会員』募集！

毎月ついたちの「盛運祈願会」の中で、住職上人が各会員の『家内安全』をご祈願致します。

その他、大本堂御寶前のお花、皆様にお配りする新聞『聖徒タイムズ』・寺報等の援助などに活用します。

会費・・・年額二、四〇〇円(月二百円)

『提灯』の募集！

当山で『お正月』『鬼子母神大祭』『御会式』に下げます『提灯』(トロー)を募集致します。

作成価格は八千円、年間の管理費が二千円ですので、初年度は一万円となります。

身に着ける「お守り」

当山では、次の三つのお守りを、全檀信徒の皆様にならず身に着けて戴きますようお願いしています。

霊神符



生命に係わる事故や災難から身を守るお守りで、必ず身に着けて、毎月交換して戴きます。

五段のお守り



我々の計り知れない死霊・生霊・野狐・厄神・呪詛の五段の邪気から身を守るお守りで、年に一回交換します。

カード型ご本尊



日蓮宗の大曼荼羅御本尊を小型化したお守りで、右の二つのお守りを、更に強くお護りして戴く為に一緒に身に着け、年に一回交換します。

【盛運祈願会】に参拝し

お守りを戴きましょう

毎月ついたち午後一時からの、お守り(俱生霊神符)を戴く行事を「盛運祈願会」といいます。

ついたちの日が仕事や諸用で忙しいとか、またご遠方の方は仕方ありませんが、是非「盛運祈願会」に参拝してお守りを戴いて下さい。

そして、我々はお守りを戴くだけでなく、御寶前に於きましてご本尊様・日蓮大聖人様・諸天善神・俱生霊神様に

『二ヶ月間どうも有り難うございました。また、今月もよろしくお願い致します。』

と、御礼する事が大事なのです。

更に、我々が知らず知らずの間に作って来た罪を、自らが懺悔滅罪し、一心に盛運を祈願して、俱生霊神のご守護をより強くする事も忘れてはいけません。

また、我々の身体はご先祖様より受け継がれたものです。

ですから、皆様ご自身の懺悔滅罪だけではなく、先祖の懺悔滅罪そして成仏を願う事も大事な事です。

二月の行事

一 日(土)『盛運祈願会』

午後一時より

- ・ 毎月のお守り【霊神符】の交換の日です。
- ・ お勤めに参拝し、お経とお題目を唱え、お守りを交換しましょう。

- ・ 聖典(お教本)と数珠は必ずご持参下さい。
- ・ 檀信徒の方は必ずお守りを持ちましょう。

二 日(日)『節分会』

午後六時より

十二日(水)『妙見小祭』

朝のお勤め中

十三日(木)『日蓮大聖人のご命日』

午後一時より

- ・ お経 (如来神力品第二十一 (訓読・日本語読み))
- ・ 如来寿量品第十六 (真読・漢字読み)

- ・ 日蓮大聖人へのご報恩を忘れず参拝しましょう。

二十四日(月) 甲子^{きのえね}『大黒様の日』

朝のお勤め中

二十五日(火)『鬼子母神小祭』

朝のお勤め中

☆奉仕のお知らせ

二 日(日)『節分会』のお手伝いと後片付け

教宣部男女・午後三時より

(注)今年度の「節分」は二月二日ですので、ご注意ください。

* 今月は、「節分会」の大有事がありますので、お手伝いの方が沢山必要です。

どうか皆様のご協力をよろしくお願い致します。

(注)一般檀信徒の方でご奉仕出来ます方は、当日時間までにご集合下さい。

◎教宣部長・杉淵昌三^{まさみ}

『十三日のお勤め』

に参拝しましょう！

檀信徒研修会は

三月までお休みです

三月一日より『お追膳』は一膳(六百元)となります